

2008年3月期決算説明資料

2008年5月
小野建株式会社

CONTENTS

- I. 2008年3月期決算の概況
- II. 2009年3月期展望・品種別販売計画
- III. 横浜鋼業連結子会社化の意義
- IV. P/L・販管費・設備投資・減価償却・B/S

将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

2008年3月期総括①前期および計画との差異

- 上昇傾向にあった鉄鋼商品市況が4Qに入って一段と上昇、価格転嫁が順調に進んだことにより、下期計画を大幅に上回り増収増益

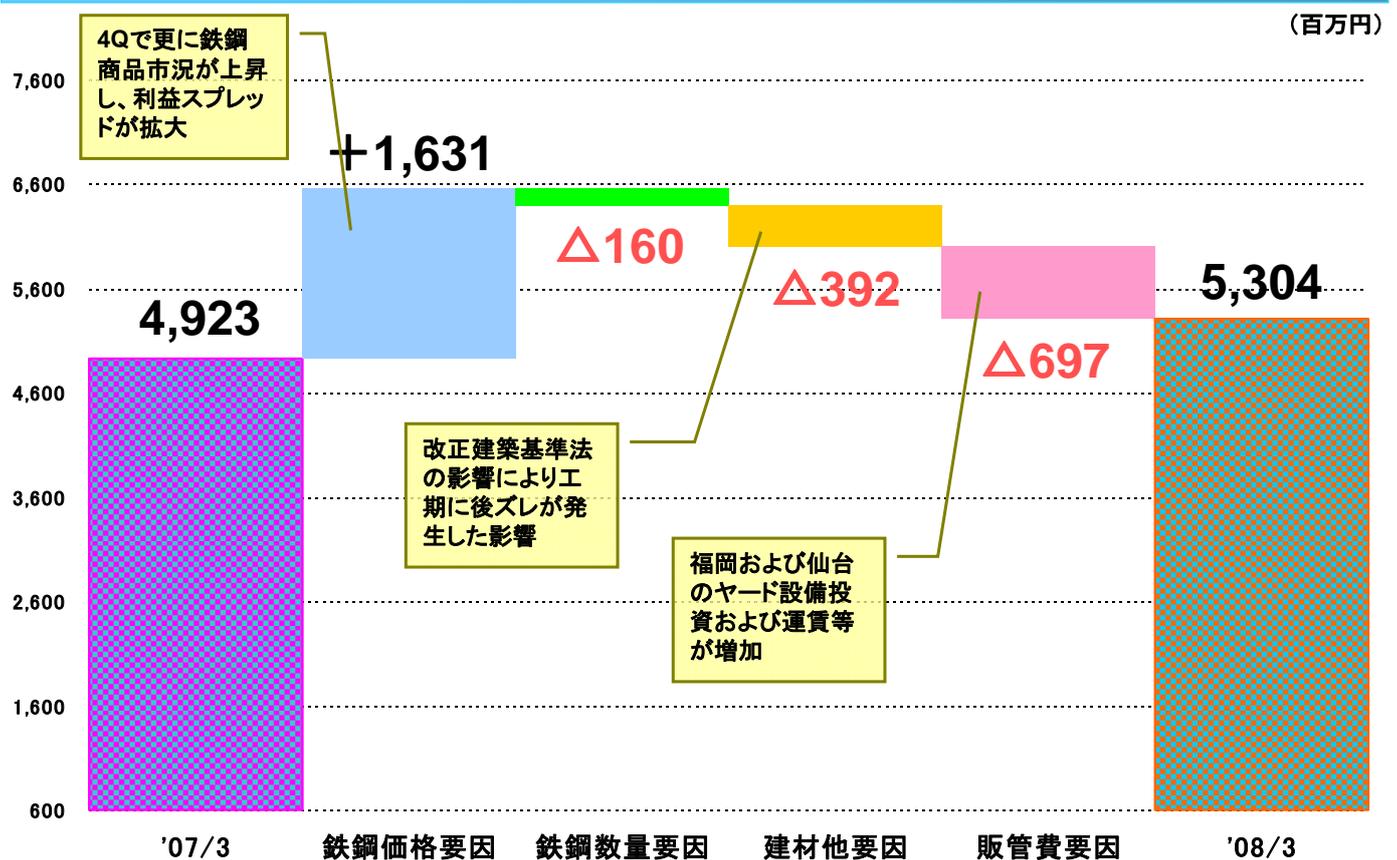
	07/3通期実績	08/3上期実績	08/3下期実績	08/3下期計画	08/3通期実績	08/3通期計画
売上高	132,658	67,616	74,888	70,882	142,504	136,789
売上総利益	9,544	4,804	5,820	5,080	10,624	9,906
営業利益	4,923	2,109	3,195	2,523	5,304	4,749
経常利益	5,112	2,181	3,318	2,557	5,499	4,882
当期純利益	2,416	1,271	1,868	1,458	3,139	2,783

(百万円)



※計画数値は2008年11月8日中間決算発表時のもの
3

08年3月期総括②営業利益/前年同期比変化要因



2009年3月期展望

● 市況

- 原材料価格の高騰とアジア圏を中心とした需要拡大により、メーカー主導にて市況は強含みに推移。

● 仕入

- 国内店売り向けはメーカーからの供給がタイトな状況が継続、メーカーとの連携強化により仕入数量確保に注力。

● 需給環境

- 国内需要は官民ともに伸び悩む傾向、特に大型物件は計画があるものの、中小物件は減少傾向。

● 経営リスク

- 市況の上昇により、売上債権が増加し与信リスクは高まっている。
- B/Sが拡大するなかコンパクトなB/Sを目指す。
 - » 売上債権の早期回収強化、資金の効率化を目指す。

品種別販売計画(小野建単体)

		(百万円・千トン)				
		07/3実績	08/3実績	09/3上期計画	09/3下期計画	09/3通期計画
鉄鋼・建材 商品販売事業	鋼板類	37,291	38,756	23,160	25,929	49,089
	(販売数量)	523	473	238	243	481
	売上総利益	2,567	2,667	1,624	1,202	2,826
	条鋼類	36,773	42,664	25,114	26,443	51,557
	(販売数量)	445	473	232	238	470
	売上総利益	3,171	4,011	2,339	1,841	4,180
	丸鋼類	22,273	26,278	17,700	17,724	35,424
	(販売数量)	357	349	172	172	344
	売上総利益	1,170	1,557	1,122	886	2,008
工事請負事業	建設機材商品	10,921	10,780	4,544	5,478	10,022
	売上総利益	459	474	203	245	448
不動産 賃貸等事業	建設機材工事	24,531	22,904	9,986	13,675	23,661
	売上総利益	1,315	932	449	624	1,073
不動産 賃貸等事業	その他事業収入	757	752	371	367	738
	売上総利益	503	478	211	248	459
合計	売上高	132,548	142,136	80,877	89,613	170,490
	(販売数量)	1,325	1,296	643	652	1,295
	売上総利益	9,188	10,122	5,950	4,585	10,993

2008年3月 横浜鋼業(株)を連結子会社化の意義

横浜鋼業の資源活用により、関西エリアでのプレゼンス拡大

● 品種拡大

- 従来の小野建大阪支店は輸入鋼材中心の品揃え、プラス要因として、横浜鋼業は一般形鋼を得意とする。

● 顧客拡大

- 横浜鋼業は創業以来、地方特約店中心の広い販売網と、物流システムを確立している。

● ヤード活用

- 堺市に2万㎡、最大在庫約6万トン、岸壁つきの堺スチールセンター(自社ヤード)を所有、在庫拡充のための調達力を小野建が補完することにより、十分な競争力を持つことが可能。



横浜鋼業(株) P/L、B/S

	(百万円)				(百万円)		
	07/3実績	08/3実績	09/3計画		07/3実績	08/3実績	09/3計画
売上高	10,271	10,614	13,506	流動資産	2,082	3,007	4,222
売上原価	9,205	9,339	12,056	たな卸資産	577	304	1,530
売上総利益	1,065	1,275	1,450	固定資産	5,794	2,516	2,487
販売費及び一般管理費	910	944	1,003	有形固定資産	5,739	2,499	2,480
営業利益	154	331	447	投資その他の資産	51	13	4
営業外収益	24	32	2	長期貸付金	317	5	5
営業外費用	144	162	96	貸倒引当金	△360	△71	△69
経常利益	35	200	352	資産合計	7,876	5,524	6,709
特別利益	15	1,619	—	流動負債	4,225	2,727	3,925
特別損失	6	3,296	—	支払手形及び買掛金	1,912	1,369	3,630
税引前当期純利益	43	△1,476	352	短期借入金	1,857	—	—
法人税・住民税及び事業税	1	1	2	一年以内返済予定 長期借入金	356	1,201	171
当期純利益	41	△1,478	350	固定負債	1,910	1,833	1,703
				長期借入金	1,897	1,803	1,674
				負債合計	6,136	4,560	5,628
				株主資本	1,740	963	1,081
				資本金	1,439	1,797	1,797
				純資産合計	1,740	963	1,081
				負債・純資産合計	7,876	5,524	6,709

連結損益計算書

※3/31 横浜鋼業を連結対象としたため、09/3期よりP/Lを連結

● 売上高・売上総利益

- － 鉄鋼商品市況の上昇により、売上高は増加傾向にあり、売上総利益においても4Qでの価格転嫁は順調に進み、収益が拡大。
- － 今後も価格転嫁を進め、一定以上の利益スプレッドを取ることによる、売上総利益率の維持が課題。
- － 内需の拡大は官民ともに望みにくく、特に民需においては、鉄鋼市況急騰および建築許可の遅れにより、先行きに不透明感が広がりつつある。
 - 販売数量の増加を目指すが必要環境は厳しい状況。
- － 在庫の拡充と販売の川下戦略を積極的に推進。

連結損益計算書

(百万円)

	07/3実績	08/3実績	09/3上期計画	09/3下期計画	09/3通期計画
売上高	132,658	142,504	86,589	95,786	182,375
売上原価	123,113	131,880	79,360	89,791	169,151
売上総利益	9,544	10,624	7,229	5,995	13,224
販売費及び一般管理費	4,622	5,319	3,450	3,318	6,768
営業利益	4,923	5,304	3,779	2,677	6,456
営業外収益	216	280	143	72	215
営業外費用	26	85	92	64	156
経常利益	5,112	5,499	3,830	2,685	6,515
特別利益	341	5	0	0	0
特別損失	1,291	105	0	6	6
税引前当期純利益	4,162	5,399	3,830	2,679	6,509
法人税・住民税及び事業税	1,745	2,260	1,362	974	2,336
当期純利益	2,416	3,139	2,468	1,706	4,174

連結販売管理費・設備投資・減価償却費

※3/31 横浜鋼業を連結対象としたため、09/3期よりP/Lを連結

● 販売費および一般管理費

- 営業人員の増加により人件費が増加。
- 設備投資による減価償却費・消耗品費の増加。
- 09/3期は燃料コストと在庫出荷比率の上昇による運賃の増加を見込む。

● 設備投資

- 福岡支店拡大移転、仙台営業所ヤード新設により大型投資は一巡。
- 新規エリアへの展開や、既存エリアでのヤード増強など、今後も積極的な事業展開を計画。

連結販売管理費・設備投資・減価償却費

※08/3連結は横浜鋼業と連結だった場合の仮定（百万円）

	07/3実績	08/3計画	08/3実績	09/3計画	08/3連結
販売費及び一般管理費	4,622	5,156	5,319	6,768	6,264
運賃	1,445	1,549	1,494	2,149	1,986
貸倒引当金繰入額	1	300	1	300	1
貸倒損失	—	—	140	—	—
人件費	1,836	1,910	1,989	2,261	2,173
租税公課	192	162	238	304	280
設備投資	4,767	1,800	2,287	200	200
小倉支店賃貸物件	29	—	—	—	—
福岡支店土地	3,109	—	—	—	—
福岡支店建築	507	1,015	1,278	—	1,278
仙台営業所土地	863	—	—	—	—
仙台営業所建築	241	493	630	—	630
減価償却費	327	470	479	570	560

連結貸借対照表

※3/31 横浜鋼業を連結対象としたため、B/Sのみ連結

• たな卸資産

- 在庫数量は適正レベルにあるが、小野建、横浜鋼業ともに在庫拡充し、在庫単価も上昇していく見込み。

• 短期借入金

- 大型設備投資も一巡したものの、仕入単価が上昇していることから、通常レベルで80億円程度を想定。

連結貸借対照表

※各詳細項目は主要項目のみを記載しております（百万円）

	07/3実績	07/9実績	08/3実績	09/3計画
流動資産	64,743	65,796	68,433	83,198
現金及び預金	2,164	1,880	2,326	2,245
受取手形及び売掛金	52,923	49,588	51,471	59,484
たな卸資産	8,653	11,657	11,325	16,709
固定資産	20,552	22,580	24,728	24,227
有形固定資産	17,725	19,802	22,045	21,530
投資その他の資産	2,747	2,707	2,603	2,654
資産合計	85,296	88,377	93,162	107,425
流動負債	44,986	42,288	43,605	55,479
支払手形及び買掛金	37,729	35,942	33,464	41,940
短期借入金	4,000	1,800	5,500	8,000
一年以内返済予定長期借入	—	—	1,201	171
固定負債	1,082	6,103	7,983	8,003
社債	—	5,024	5,021	5,000
長期借入金	—	—	1,803	1,674
負債合計	46,069	48,391	51,588	63,482
株主資本	38,786	39,670	41,234	43,783
資本金	3,358	3,358	3,358	3,358
純資産合計	39,226	39,986	41,573	43,943
負債・純資産合計	85,296	88,377	93,162	107,425